

5-1 機械の判断による、

機械から人への権限委譲

NHTSA や SAE によるレベル 3 の自動運転では、基本的にドライバーはクルマの運転から解放されます。システムが車両制御だけでなく周辺監視も含めて運転を一手に引き受けてくれるからです。しかし、ドライバーはまったく何もしなくてよいかというと、そういうわけではありません。故障や機能限界のために「これ以上、運転を続けていくのがむずかしい」という局面になってくると、システムはドライバーに「運転を交代してください」と要請します。このような運転交代要請（request to intervene : RTI）は、ドライバーにとっては予期せぬタイミングで発せられますが、たとえそれが突然の要請であったとしても、ドライバーは、動揺することなく状況を冷静に見極め、適切かつ安定的な操作によって運転を引継がなければなりません。

システムからの要請に基づいて、車両制御の権限をシステムからドライバーに移すことは、「機械の判断に基づく、機械から人への権限委譲」の典型です（基礎編第8章）。権限委譲は、誰から誰に権限を移すのかという視点から、「人から機械への権限委譲」と「機械から人への権限委譲」の2通りのカテゴリに分かれます。さらに、権限委譲が必要であるか否かを判断するのは人なのか、機械なのかという観点からは、「人の判断による権限委譲」と「機械の判断による権限委譲」の2通りに分けることができます。このように考えると、現実の場面で起こり得る権限委譲には、「人の判断による、人から機械への権限委譲」、「人の判断による、機械から人への権限委譲」、「機械の判断による、人から機械への権限委譲」、「機械の判断による、機械から人への権限委譲」の4つのタイプがあることがわかります。

レベル3の自動運転で求められるのは、「機械の判断による、機械から人への権限委譲」ですが、このタイプの権限委譲は4つのタイプのうち最も注意を要するものです。コラム『『機械の判断による、機械から人への権限委譲』は成功するとは限らない』に記したように、「機械は、人に権限を委譲したつもりになって制御を停止したが、人は、機械からうまく権限を引き継いでいない」ということがあり得るからです。